

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年 9月16日更新

事務事業名	合志庁舎増築事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	総務部	課長名	岩田 建一	
体系	施策	25	行政改革の推進	所属課	財政課	担当者名	平田 政臣	
	施策の柱	83	効果的な組織運営	所属班	財政班	(内線)	1240	
予算科目	会計一般	款 2	項 1	目 7	事業連番 11690	根拠法令	建築基準法など	成果優先度評価結果 : ⑨ コスト削減優先度評価結果 : ⑥
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 27年度で終了 <input checked="" type="checkbox"/> 27年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 ~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (27 ~ 29 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	多様化する行政事務、窓口のワンストップ化促進等により、合志庁舎への職員集約が必要となっている。今回、職員集約による事務室や会議室等スペースを確保するため、既存庁舎の北側に増築を行う。
【業務の流れ】	・平成27年度において設計着手し、平成28年5月末までに設計を完了。 ・時期を見て各工事(既存改修・解体、本体、設備など)を随時発注し、工事の完成を目指す。 ・完成後、連休等を利用し、引越し等を実施予定。
【主な予算費目】	役務費(確認申請手数料等)、委託料(設計・監理委託等)、工事請負費 等
【意見や要望】	単純な合志庁舎への集約(本庁舎化)となってしまうと住民からも議会からも理解を得ることは困難であり、西合志庁舎の今後のあり方も含めて計画・検討の必要がある。また、予算額が大きすぎるとの声もある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分: 新規
① 手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動) (DO)	28年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
平成27年12月補正にて設計委託料を確保し、入札・契約を行なった。平成28年5月末までの設計完了を目指し、関係者協議をしながら進めていく。	増築に先行して、既存設備等の改修及び解体工事を時期を見て発注・契約する。その後、本体工事・設備工事等の発注・契約手続きを進め、工事の完了を目指す。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 業務及び工事発注件数	【新規事業】多様化する行政事務への対応や窓口のワンストップ化実施等に向け、合志庁舎への業務集約を行なうための合志庁舎増築工事関係費用の増。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
合志庁舎	→ ア: 合志庁舎行政事務棟数 (単位) 棟
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
行政事務棟を増築する	→ ア: 工事進捗率 (単位) %
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠	
総トータルコスト 全体計画 ~29年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	実績(決算)	実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	29年度 予定	見込	見込	
① 活動指標	ア	件			1	1	6	1			
	イ										
② 対象指標	ア	棟			1	1	2	2			
	イ										
③ 成果指標	ア	%			0	0	100	100			
	イ										
投資 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円					607,300			
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人 件 費	一般財源	千円				8,190	63,959	1,000		
		(A) 事業費計	千円			0	8,190	671,259	1,000		
		(A)のうち指定経費	千円			0	0	0	0		
		(A)のうち時間外、特勤	千円			0	0	0	0		
		正規職員従事人数	人			5	1	5	5		
延べ業務時間	時間			180	100	1,000	180				
(B) 人件費計	千円			717	371	3,984	717				
トータルコスト(A)+(B)	千円			717	8,561	675,243	1,717				

事務事業名	合志庁舎増築事業	所属部	総務部	所属課	財政課
-------	----------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 計画に沿って事業を進めており、達成の見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 多様化する行政事務や窓口のワンストップ化促進等により、庁舎の増築は必要となっており、これ以上の成果の向上余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 庁舎管理事業と類似し、既存庁舎との取り合い部分などで連携をする必要はあるものの、庁舎を増築する事業については本事業のみである。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 設計内容を精査・調整し、最小の費用で最大の効果を発揮する庁舎建築とすることで事業費の削減は可能と考える。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現在の体制において、現人員での事務量をこれ以上削減できる余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 本市における行政サービスの中心となる必要不可欠な施設であるため、公平・公正が保たれている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 市の行政事務を行う施設であり、他には移行できない。

3 評価結果の総括 (CHECK)

関係者協議を行ないながら、設計内容を精査しつつ、事業を進めている。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない) 設計内容を精査・調整し、事業費削減を考えながら事業を進めていく。	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持																				
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																					